

校友会会長 退任のあいさつ

第29期（昭和34年卒業） 宮原 健



長い歴史を誇る我が母校ですが、残念ながら長らく同窓会組織は確立されていませんでした。

そんな中でようやく動きがあったのが、母校創立70周年を迎えた平成10年のことで、記念事業の一環として「同窓会の組織整備」が盛り込まれたのです。

その後、3年間の準備期間を経て平成13年5月に挙行された創立総会をもって、大阪商業大学高等学校同窓会本部（後に「校友会」と改称）が立ち上がりました。

私は、創立当初から事務局長として参画し、その後、副会長を経て平成25年5月に会長職を拝命。以来、9年間に渡って校友会会長として同組織の成長と発展に尽力して参りましたが、昨年5月の定期総会で、現会長である徳重悟氏にバトンを託しました。

当初は全面的に退くつもりでしたが、役員の皆様からご支持をいただき、今後も常任顧問として役員会に出席して意見を述べるという役割を与えていただきました。とは言え、新しい時代の校友会のあり方は、若い人たちにお任せをして、私は側面からのバックアップに徹しようと考えています。ただ、会長退任後も引き続き校友会の発展に、何らかの形で関わらせていただけることに、この上のない喜びを感じています。

今後、校友会がますます隆盛飛躍するよう、皆様のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。校友会会長退任の挨拶とさせていただきます。

校長退任のご挨拶

前校長 好永 保宣 先生



この度、3月31日を以って大阪商業大学高等学校校長を退き、4月1日付で大阪商業大学堺高等学校へ異動となりました。現在、未だ慣れない環境ながらも校務運営に鋭意努力しております。大阪商業大学高等学校では、平成28年度より昨年度まで7年間お世話になりました。校友会におきましても、宮原前会長、徳重現会長を始めとして多くの役員、会員のみなさまに一方ならぬご厚誼を賜り、感謝の言葉もございません。

思えば、7年前、平成28年5月の総会からのお付き合いとなります。総会では、ユニバーシティホール「蒼天」での議事進行、ピアノデュオ「かさねいろ」によるコンサートなど素晴らしい企画・運営に驚いたことが今でも印象に残っています。爾来、体育祭や文化祭などへの参列や、卒業式における校友会の説明、卒業生への花束贈呈など、様々な教育活動にご支援をいただきましたこと、特にここ数年はコロナ禍の中、制限は多かったものの変わらぬご厚情で学校を支えていただきましたこと改めて感謝申し上げます。また、2018年学園創立90周年に際しては、中庭に桜の木を寄贈いただきましたことは、校友会のみなさまの想いと私の想いが合致したもので、大変良い記念と心に刻まれております。

結びとなりますが、校友会のみなさまには、これまで同様に本校へのご支援をお願いいたしますとともに、校友会の益々のご発展を祈念致しまして、退任のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

校友会 高齢者の皆様へ

「高齢者 死ぬまでの最後の仕事 死に対する準備と死の覚悟」

校友会相談役 藤川 良純
第26期（昭和31年卒業）86才



第1 人は健康寿命以降、半健康となる。

死に至るまで準備と覚悟が一仕事です。半健康になると介護の問題と死に対する心の整理が必要になります。

第2 そこで、準備と対応はどうするのか。

- A. 死の準備は、身の整理とエンディングノートの必要事項を良く考えて覚悟を決め、早めに記入すること。
- B. 家族へ伝えたいことを伝える。
- C. 病気が進み、介護期に入ったらどうするか。対応を考える。
- D. 家族や言うべき人に、早いに感謝の言葉を言う、伝える。

第3 死ぬときの覚悟。あの世はあるか、無いか。

- A. 死とは、眠るように意識が薄れ死に至る。
（和田秀樹、80歳の壁）
- B. うらやましい死に方。
死ぬ時に人に感謝の言葉を言い伝えながら死ぬこと
（五木寛之）（文芸春秋、うらやましい死に方 特集）
- C. 高齢の生き方、死に方を書いた本は、書店に沢山あります。数冊も読めば覚悟が決まると思います。

第4 高齢者の日々の生活は、

- A. 今日一日苦勞も苦痛も無く平穩に過ぎ、自分なりの楽しみや自分の好きな物を食すれば、老人の最高の幸せであると思います。

第5 あの世は、あると思うか、無いと思うか。

- A. 作家の石原慎太郎氏は、人の死は一瞬で魂も何もかも無くなり、チリ、芥になると言われます。
- B. 作家 曾野綾子さんは、天国はあると魂もあると思うと言われます。
〈石原慎太郎、曾野綾子「死とは対談」〉
- C. 人の死は眠るが如く息を引きとる和田秀樹氏は言われます。眠るが如くであれば、死ぬのも安心で、そう言う考え方は、理想的だと思います。



第6 誰でも人は、高齢者は死ぬ時が来る。覚悟を決め、寿命の日迄 平穩に過ごしたいと思いますね。

連続4回投稿しました。記事を読んで頂いた方に感謝いたします。今回で一区切り、最後といたします。

高齢者皆様が平穩にお過ごしされますよう祈念いたします。母校を誇りに思い母校に感謝し、母校の発展を祈念します。

新テイコク薬業(株)前社長、校友会前副会長
大阪商大高校 校友会相談役 藤川良純 86才

剣道部の皆様へ

第39期（昭和44年卒業） 澤井 博一

毎年、校友会当日にOB会として、13時に高校剣道場に集合し、現役とOBの交剣知愛の稽古会の後に、校友会懇親会に参加をして、昔の辛かった部活の思い出話に花を咲かす。令和4年度は、稽古会は出来ませんでした、校友会懇親会に4名が参加しました。

7月24日(日)に第40期生の中西雅彦さんが企画している修道館剣道クラブ、生駒武道館稽古会にOB稽古会として参加し、皆様と交剣知愛をしました。参加者は第36期生 渡部重雄・第38期生 松岡洋文、富田委晶・第39期生 新井 修、澤井博一・第40期生 中西雅彦・第41期生 上峠通男の7名です。



剣道部は、昭和35年卒第34期生から、指導者は戦前の国士館 青木勇武先生・京都武専 大長光敏先生・東野仁三雄先生・竹内 節先生方で、OB会は豚珍会（昭和35年第34期生から昭和45年卒第40期生まで）青葉会（昭和44年第3期生から昭和54年卒第49期生まで）平成18年卒第76期生の増田和真さんたちで獅子ノ会を作り、現役生の応援とOBの親睦を目的に頑張って稽古会を企画して頂いております。

現在の顧問は国士館大学卒業の藤井貴之先生が頑張って指導されておられます。

吹奏楽部OB会（楽窓会）開催

「創部90周年に向けて、検討を開始」

第28期（昭和33年卒業） 赤部 功

楽窓会は、戦後まもなく母校吹奏楽部OB会として発足しました。平成30年より前会長青山兼光氏の後任を任されています赤部功でございます。

昨年11月5日、東大阪小阪のU・コミュニティホテルに於いて、校友会から会長の徳重悟氏、理事の矢津武志氏ならびに元顧問の藤原道弘先生のご臨席を賜り、定例の楽窓会総会を開催いたしました。

その後に行われました懇親会の中で、藤原道弘先生から「令和6年は、母校吹奏楽部の創部90周年にあたることから、何らかの記念事業を検討されていますか？」との質問がありました。

これを受けて早速、本年1月21日、実行委員会の組織化に向けての準備会を開催し検討に入りました。詳細は、追って案内させていただきますが、楽窓会会員ならびに校友会の皆様には格別のご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。

さて、本会の参加者は、回を重ねるにつれて若干の入れ替わりがあるもののいささか固定されてきたように思われます。高齢者の参加が難しくなり、若年層の参加がやや少ないのが現状です。今後、一人でも多くの参加者を得るため、積極的に縦横の連絡を取り合い、90周年記念事業開催に向けてなお一層本会を盛り上げていかなければならないと思っています。

なお、本年度の楽窓会は、下記のとおり開催を予定しています。会員の皆さんにおかれましては万障お繰り合わせの上、奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。

剣道部OB会 交剣知愛

日 時：校友会総会当日 13時
集合場所：高校剣道場
目的：OBの懇親と現役高校生の応援
1時間程度、稽古会もしたい。
懇親会会場：校友会懇親会

(校友会懇親会参加申し込みをしてください。)

校友会懇親会に参加して懐かしい人と再会してください。

第39期 昭和44年卒業 澤井 博一 090-8164-7708

楽窓会（吹奏楽部OB会） 総会開催のご案内

令和5年11月4日(土)の予定

楽窓会役員

相談役	高橋 利夫 (24)	・	木下 正幸 (26)
会 長	赤部 功 (28)		
副会長	阿蘇 俊六 (31)	・	井野 早雄 (32) ・ 大岡 清司 (38)
事務局	宮原 健 (29)	・	藤原 昇 (38)
会 計	東内 秀多 (39)	・	黒田 雅史 (40)
監 事	山口 弘 (42)		

()数字は、卒業期

校友会総会に寄せて

大阪商業大学高等学校事務室 稲葉 隆 男

(令和5年4月1日付人事異動により転出)

校友の皆様におかれましては、健やかにお過ごしのことと拝察申し上げます。また、平素は本校の教育活動にご尽力くださり、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

さて、昨年度発行された校友会誌に続き、2度目の寄稿となりました。

前はテーマが一任されておりましたので、私の日常を記した作文のような拙い内容で、今読み返すと恥ずかしい限りですが、今回は「校友会総会に寄せて」というテーマをいただきましたので、少しでもそれに見合う内容になるように頑張ってみます。

一昨年、私の卒業した大学のクラブのOB会の会長を引き受けることになりました。会長職を引き受けた後にコロナ禍が始まり、就任の挨拶は書面のみ、会も開催できていないまま現在に至ります（本当はゴルフコンペもあるのですが、こちらも保留中）。私自身がOB会に参加するようになったのは12、3年前からですが、参加者は毎回15人前後、凡そ同じ顔触れで、一番若い人でも47、8歳というのが現状です。年配のOBからは、延期が続くと次に会えるかどうかわからん、という笑えないお叱りをいただいたこともありました。

同窓会だと規模も小さく、発起人さえいればなんとなのかと思います。一つの組織に属していた人たちが世代を超えて交流し、活動する組織である校友会やOB会ともなるとそうはいきません。会費も必要です。特に若い人には敷居が高く感じられるだろうし、縦横の繋がりがないと参加しづらいだろうと思います。そこに一歩踏み出すには、現役時代の過ごし方や先輩後輩の関係性、そこでの経験がその人の今にどう影響しているのか。個々の帰属意識の強さが組織の姿に大きく反映するのだろうと思います。

今年はOB会の活動再開を一つの目標とし、新しいメンバーが“気軽に顔を出せる”、そんな活動になるよう心掛けたいと思います。

校友会の益々の発展と皆様のご健康をお祈り申し上げます。

校友会 青年部 活動開始に期待する

理事 東野 義 晃

新しい年が、始まり早くも半月以上が経過した。今年、年越しを所要により東京で迎え初詣の、御神籤も「大吉」ワクワクする気持ちしかない。

コロナに関しても、春からは5類に引き下げる方向とか？ゼロコロナにするのは、正直無理な状況なので、withコロナの世界で共存の、方向を考えていくしかないと考ええる。

そんな中、若手のメンバーから嬉しい情報が入ってきた。

校友会の活動の新チームとして、若手が主体となる「青年部」。実際に発足してから、コロナ発生もあり約3年、実質的な活動が停止した状態であった。しかし、若手メンバーが、立ち上がり動き出したと言う情報だ。

思い返せば、私のご縁あり校友会活動に参加して、そろそろ7～8年経過した。最初の頃は、なんとか？若手を校友会の活動に、参加させたいと、役員会で発言しましたが、残念ながら時期早々だったのか？実現にはいたらないこともありました。

そんな中、昨年秋ごろより若手理事が主体となり、活動の準備をしはじめているという情報が入ってきました。すでに何人かのメンバーを集めて連絡を取り合っていると聞いて、若手校友会のメンバーの動きを大変頼もしく思いました。もっと多くの若い校友会メンバーに、校友会活動に興味を示して貰えて、校友会活動への参加者が増えていき、大阪商業大学高等学校を盛り立てていけたら良いのだ。

若手メンバーの今後の、活躍を期待する。頑張れ！
青年！

優良防火管理者として表彰

第47期（昭和52年卒業） 田 口 富 雄

2022年10月28日（金）大阪市連合防火管理協会の令和4年度優良防火、防災管理者表彰式が大阪キャッスルホテルで開催されました。

防火、防災管理者業務の功績が顕著であるということで、淀川支部より推薦いただき、優良防火管理者として表彰及び記念品を受領致しました。



賞状と盾をいただきました！